

課 題		主 な 意 見	関 係 機 関	回 答 等
議事－(1) 前回合同会議の検討経過の概要	(1) 概要報告 (2) 前回の意見等に対する回答	①捕獲の効果が顕著に現れて、個体数が減ってきている。一方、この減少が捕獲している地域以外でも起きているので、その関連をどう捉えるか。捕獲が捕獲地域の周辺地域にも影響を及ぼしていることは考えられるが、高標高や西部までそういった効果があるかどうかは慎重に判断する。 ②捕獲効率についてスレジカ問題についても議論にはなっているが、目標は低密度にあって、それが達成されていることが重要。	WG事務局	
議事－(2) ヤクシカの現状について	(1) 生息状況・捕獲状況・各種モニタリング状況について	①資料2－④月別の捕獲数。林道別でシャープシューティングをやった安房林道63支線と小楊子24支線について。2枚目の方は年度ごと、林道ごとに全部出ているが、1枚目だと複数の林道をまとめて表1は入ってしまっている。シャープシューティングとくくりわなの関係性を見る上では今後、63支線と24支線に特化した上で出してほしい。	環境省	①出し方については、またご相談させて頂きながら対応したい。
		①これから標高の高いところが論議になってくる。環境省の資料2－①の緑の部分、鹿児島県の資料2－③の5ページの紫の部分、もう少し、緑と紫で塗りつぶされている部分の構造が分かるように区分ごとに示していただきたい。	環境省 鹿児島県	①ご助言を踏まえ、対応して参りたい。
		①資料2－①、②の糞塊法による生息密度は今年、河川界区分8の永田と西部が入っているところで増加しているが、資料2－③の糞粒法を見ると軒並み下がっていて、この不一致は何が原因か。 ②糞粒法で調査した地点は食圧がかかってシカが使わない状況になってくると、シカは餌が残っているところに移動してしまっていて、局所的な密度が下がる傾向は起こりがち。糞粒法だけから西部が減ってきているという評価は、まだ早計ではないか。 ③推定した地図は推定法によって変わってくるので、位置データを比較できるようにしていただきたい。環境省の糞塊のデータを、県で出しているような表にして、個々のメッシュで糞塊数の増減を、その数の差も含めて評価できるようにしてほしい。	環境省 鹿児島県	①県とも情報を共有し一緒に考えたい。 ②③ご助言を踏まえ、対応して参りたい。
	(2) 平成29年度ヤクシカ捕獲状況	①結果として70頭捕獲できているが、県の評価として指定管理鳥獣捕獲等事業が今後も奥山のほうでも期待される事業になり得るのかなと思っていますが、平成29年度の結果をみると、事業の目標としていた数として、結果は満足できるものだったかどうか。 ②今年度以降も、屋久島では場所を変えてされるのか、同じ場所で継続してやっていくのか。	鹿児島県	①県内他地域の捕獲効率から目標数は50頭とした。実績は71頭であり、想定したものよりも捕獲効率は高かった。 ②昨年度の実施地域は国有林の捕獲実施地域で、国有林の捕獲狩猟後、県が入って継続実施している。今年度も同様にやっていくことを想定。
	(3) 国有林の林道別のヤクシカの捕獲数と捕獲効率(CPUE)の推移	①国有林のCPUE低下の原因が、おそらく生息数と関連することについて異論ないが、だからこそ、捕れにくくなったシカをどう捕獲するかが、今後議論されていいのではないか。	林野庁	①捕獲状況等勘案しながら、検討して参りたい。

課 題		主 な 意 見	関 係 機 関	回 答 等
議事－(3) 平成29 年度 及び30年度 の取組について	(1) 屋久島町における鳥獣被害防止対策	①なぜシカを獲らなければならないのか、住民への啓発は非常に重要。命がかわいそうであるという意見があったとしても、農業被害も含めてこういった事情でこういう風にしてシカの頭数を減らさなければならないということを環境省にお任せするのではなく屋久島町が責任を持って住民への義務を果たしていくべきということをお願いしたが、その実施状況はどうか。	屋久島町	①捕獲の依頼があった場合、町防災無線により捕獲実施理由(農作物被害の発生)や捕獲対象鳥獣及び捕獲区域について周知を行っている。
	(2)別紙1:西部地域におけるヤクシカ密度操作実験実施計画案 別紙2:シャープシューティングの体制によるヤクシカ試験捕獲の実施について	①わなと違って、銃を持った人が主体的に能動的に動くということではできるだけ捕獲効率を一定に維持しながら密度を低減させるということが可能。銃器を用いた捕獲を積極的に投入するというオプションを是非検討していただきたい。そういう意味では、シャープシューティングが密度操作試験と違うところで実施されていることはあまりよくない。 ②目指すシカの密度は相当に低く持っていかなければならず、その密度を安定的にリバウンドさせないように維持しないといけないという技術的な課題もある。ここをわなだけで達成することは不可能だと思うのでその点を考慮してほしい。 ③個体数や捕獲数を決めるだけが数値目標ではないが、5年たった後で成功だったか失敗だったか、どうだったかどうかというのがこれだと見えない。もう少し明確な目標があった方がいいのでは。 ④密度操作実験について。川原地区では研究者も多数入っており、周知や合意形成をなるべくしてほしい。半山地区以上に、川原地区と瀬切地区がよく似ているので、その調査について検討してほしい。 ⑤現状行われているシャープシューティングは誘引狙撃的な部分が多いが、必ずしもそうではないということをもう一度共通認識として持っておく必要があるのでは。一定以上の技術を持った射手、従事者が計画的・科学的に従事し、丁寧に獲っていく。頭を撃つということはウェルフェアにも適うし、かつ警戒心も上げにくい。	環境省	①②③ご助言を踏まえ、対応して参りたい。 ④現地の状況を踏まえて検討したい。 ⑤ご助言を踏まえ、対応して参りたい。
	(3)鹿児島県のヤクシカ対策について	①資料の捕獲計画では2、3年後には今より増やさなければいけないとあり、そうすると順調に減っているわけではないのでは。生まれてくるのは1対1で、どちらかという雄の方が自然死亡率が高く、同じように獲っていればますます雌バイアスになると予想される。ところが雌の方が最近捕獲数が減っているというのは何か理由があるかもしれない。もし減らしたければより一層雌をとってほしい。 ②森林管理署の林道別の捕獲数と捕獲効率の推移をきちんとやると同時にシャープシューティングで獲られたものをきちんと解析することにより、性の偏りや年齢の偏りをシャープシューティングで補正できるという印象。シャープシューティングをやった林道では少し詳しくにくりわなのデータをいただければ。	鹿児島県 林野庁 環境省	①②ご助言を踏まえ、関係機関で検討し対応して参りたい。
	(4) 国有林におけるヤクシカ対策について	※特に意見等はなかった。	林野庁	
議事－(4) 生態系管理の目標について	(1) 屋久島森林生態系管理目標策定に向けて	①指標はあくまで指標なので、その指標を満たすことを目的にするというよりは、あくまでその指標を使って最後に総合的な評価をする、という考え方とすればいいのではないか。 ②植生の被度を植生保護柵の外と同じにすることは必ずしも要らないのでは。知床ではシカの密度を0にすることが自然植生上、むしろ弊害があるという論文も出ている。当然シカが居れば同じにはならないと思うので、外の何割などという工夫があれば、被度も十分に課題になるはず。	林野庁	①②ご助言を参考に、相談させて頂きながら対応して参りたい。